

「オリンピック・レガシーに関する意識調査」(第4回)結果概要

2017年6月

MRI 株式会社三菱総合研究所

調査概要

- 調査対象：全国20-60 歳代の男女3,500 名

- 調査時期：2017年4 月
 - ・第1回意識調査 2013年12月
 - ・第2回意識調査 2015年 4月
 - ・第3回意識調査 2016年 4月

- 調査方法：WEBアンケート調査
(三菱総合研究所「生活者市場予測システム(mif)」を利用)

- サンプルング：東京都1000、関東6県1000、東北3県(被災地)500、その他地域1000

- 集計：地域別回答数を国勢調査人口比(全国)に基づいて重みづけ(ウェイトバック)

調査結果のポイント

1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

～オリパラに対する関心や社会変革への期待はわずかながら回復へ

- 2020年東京大会に対しては約57%が関心を示し、また大会を契機とした社会変革へは約33%が期待を寄せている。関心・期待ともに2013年12月時点(東京開催決定直後)以降、低下傾向が続いていたが、若干回復した。2016年8月に開催されたリオ大会の効果と推測され、これを契機に期待・関心が反転し高まっていくのか注目される。
- なお、20代の東京大会に対する関心度は相対的に低い状態が続いている。

2. 「オリンピック・レガシー」について

～レガシーに対する認知度は大きく向上

- オリンピック・レガシーという言葉について、「知っていた」のは約21%、「聞いたことがある」を含めて約48%。前年調査よりも認知度が大きく向上した。
- なお、レガシーの認知度においも、20代が相対的に低い状況にある。

3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)

～「安全な社会」「競技会場の有効活用」「大会後の持続的成長」の実現への期待が高い

- 東京大会を契機に実現してほしい社会としては、「安全な社会」が約36%と最も高く、次いで「競技会場の大会後の有効活用」「2021年以降も持続的に成長する社会」「地方・被災地への好影響の展開」がそれぞれ3割強。
- 昨年からの期待度が向上したのは、「競技会場の大会後の有効活用」「2021年以降も持続的に成長する社会」「スポーツ・芸術文化の生活への浸透」の3つである。

4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(考え方・行動)

～意識・行動変容は低下。若年世代の方が変容度が高い

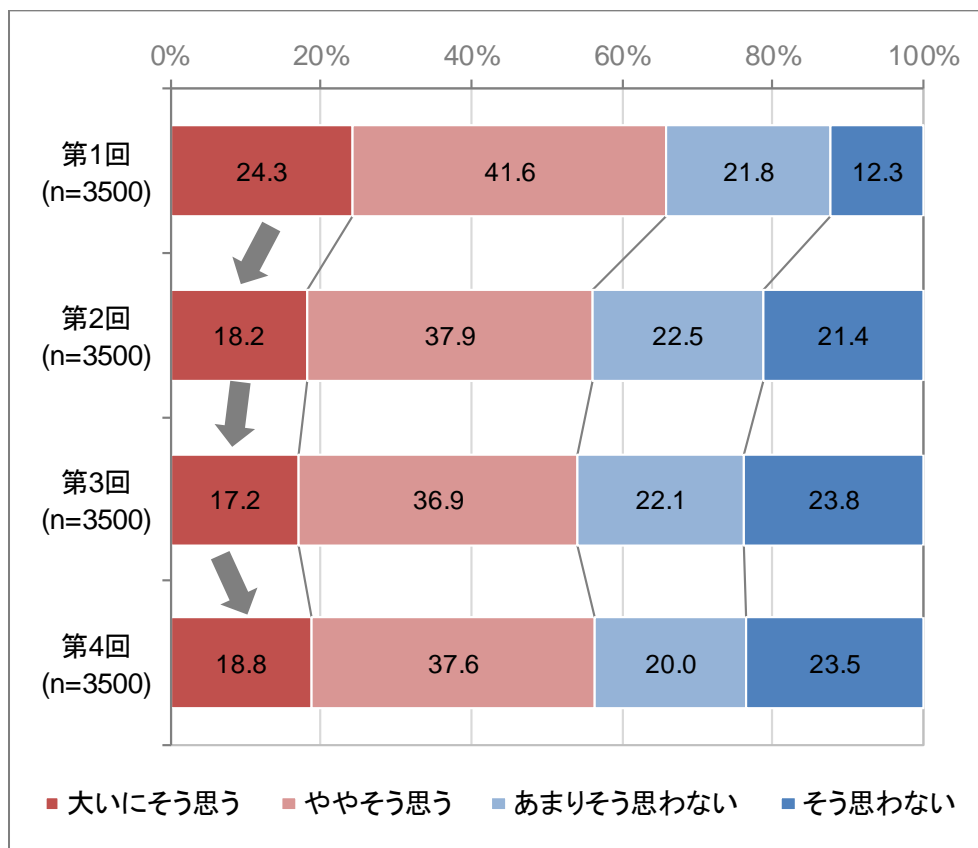
- 2020年東京大会開催決定後の意識・行動変容は全般に低下が続いている。
- なお、20代の若年世代においては、意識・行動の変容度が相対的に高い。レガシーを認知し、東京大会に関心を持つ若者を増やし、こうした変化に対する若者世代の柔軟性・意欲を社会的にも十分活かすことが期待される。

1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

【全体】

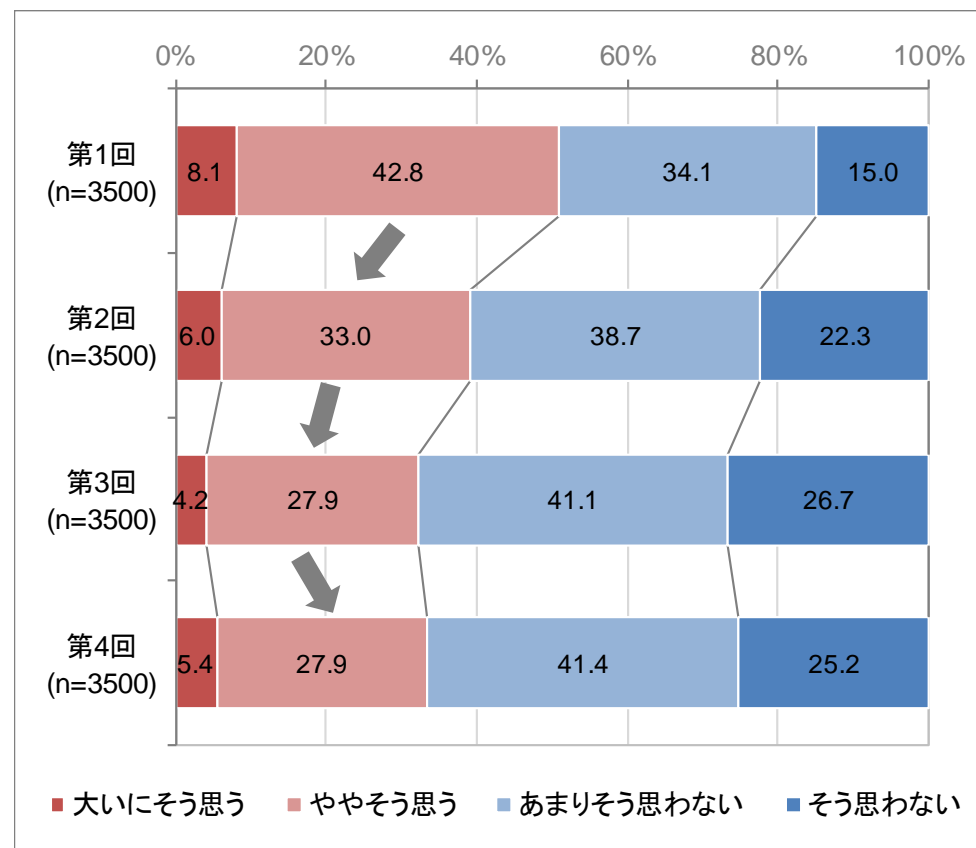
(1) 2020年東京大会に関心がある

- 2020年東京大会への関心は、「大いにそう思う」が約19%、「ややそう思う」が約38%。
- 第1回調査時(2013年12月)以降、関心は低下傾向にあったが、若干回復した。



(2) 2020年東京大会をきっかけとして社会が良くなる

- 2020年東京大会を契機とした社会変革への期待は、「大いにそう思う」が約5%、「ややそう思う」が約28%。
- 第1回調査時(2013年12月)以降、期待は低下傾向にあったが、若干回復した。



1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

【設問別クロス】

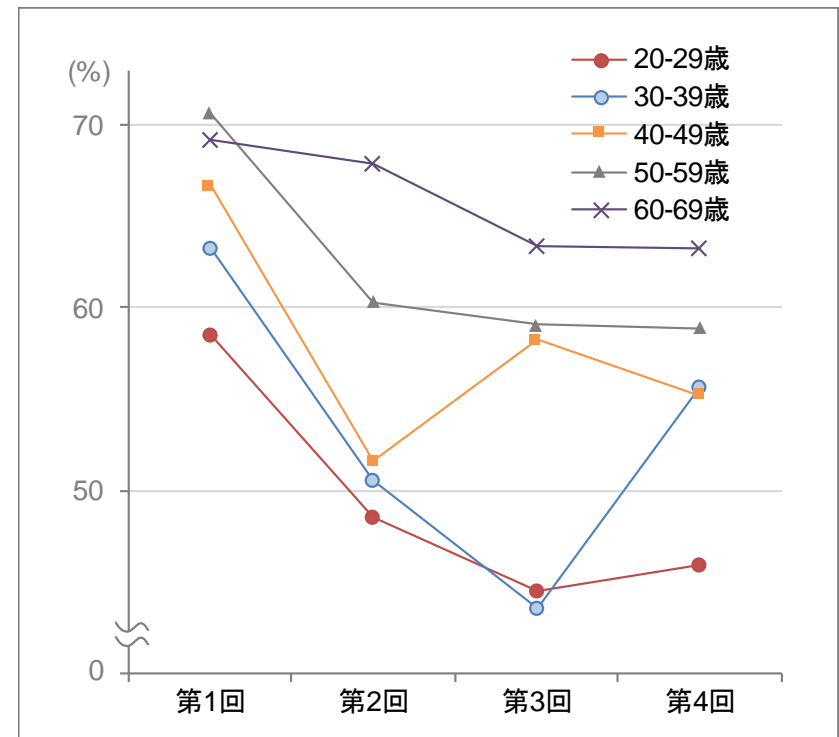
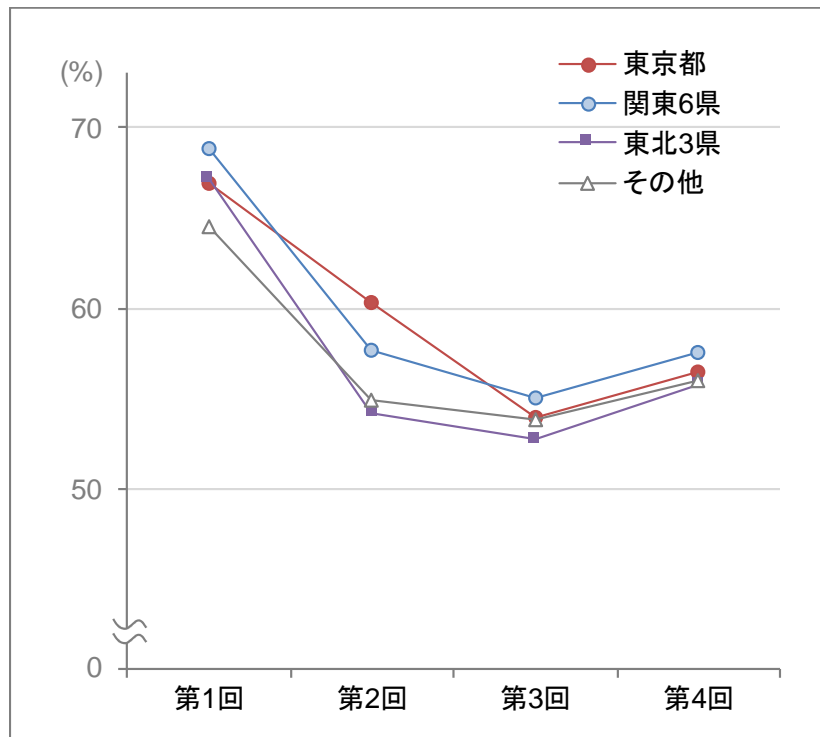
(1) 2020年東京大会に関心がある

地域別*

- 2020年東京大会への関心は、全ての地域でわずかながら向上した。

年代別*

- 年代別にみると、30代での向上が顕著である。



※「大いにそう思う」+「ややそう思う」の合計値

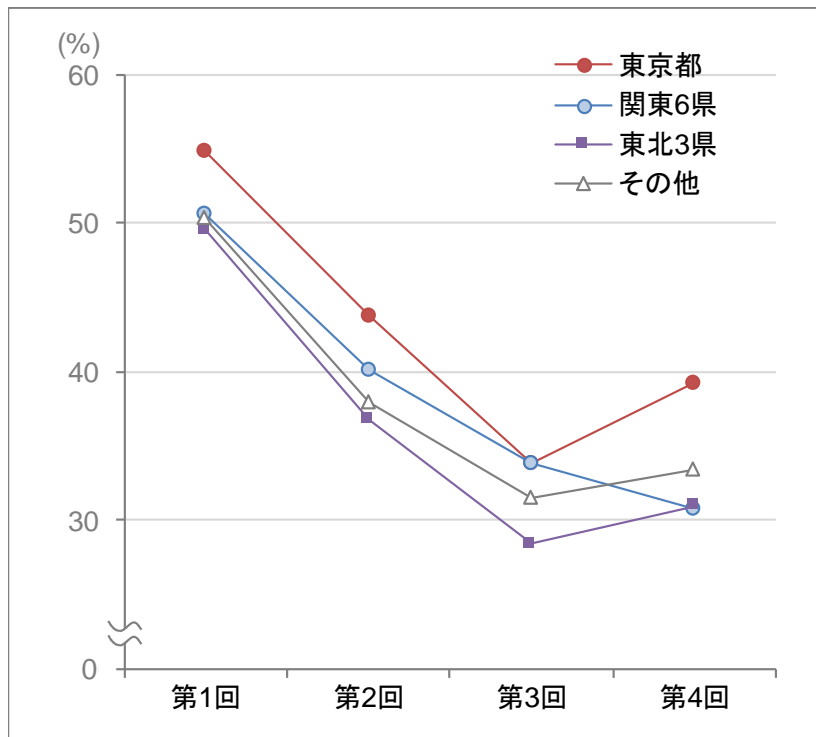
1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

【設問別クロス】

(2) 2020年東京大会をきっかけとして社会が良くなる

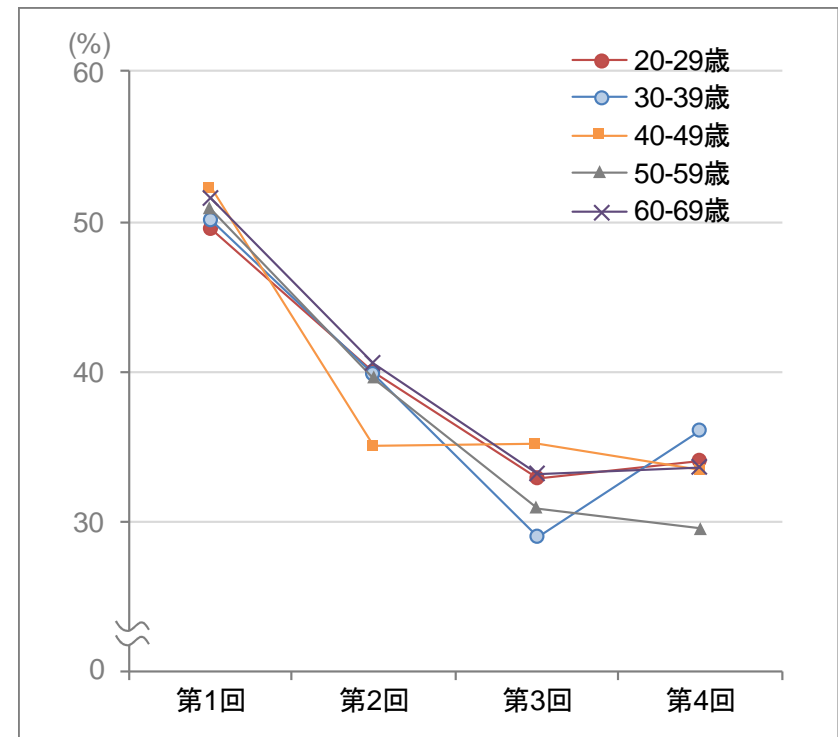
地域別*

- 2020年東京大会を契機とした社会変革への期待は、関東6県以外は回復した。



年代別*

- 年代別にみると、30代での向上が顕著である。



※「大いにそう思う」+「ややそう思う」の合計値

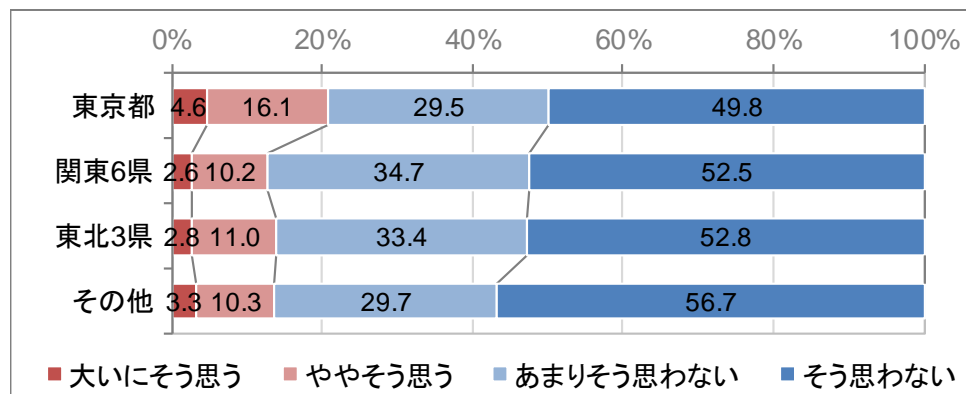
1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(3) 東京オリンピック・パラリンピック関連のボランティアスタッフとして大会に参加したい

【設問別クロス】

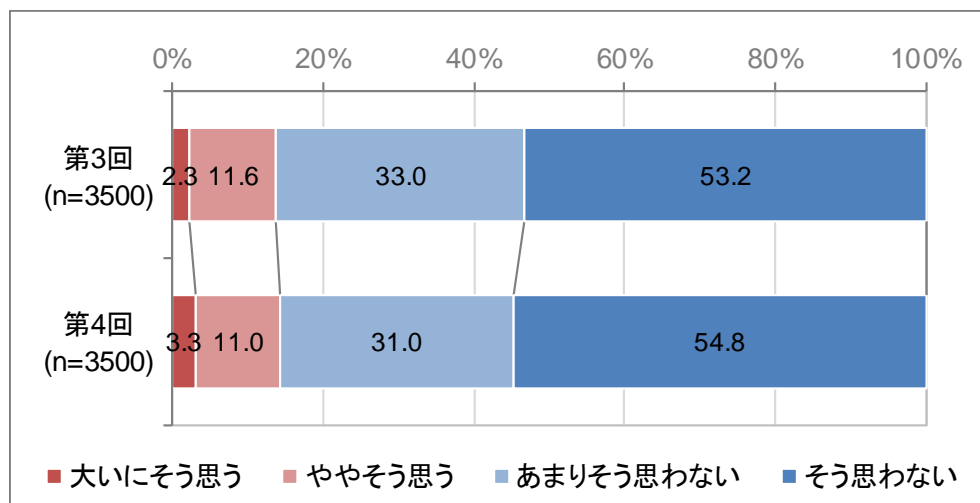
地域別

- 地域別には、東京都で参加意向の割合が高い。



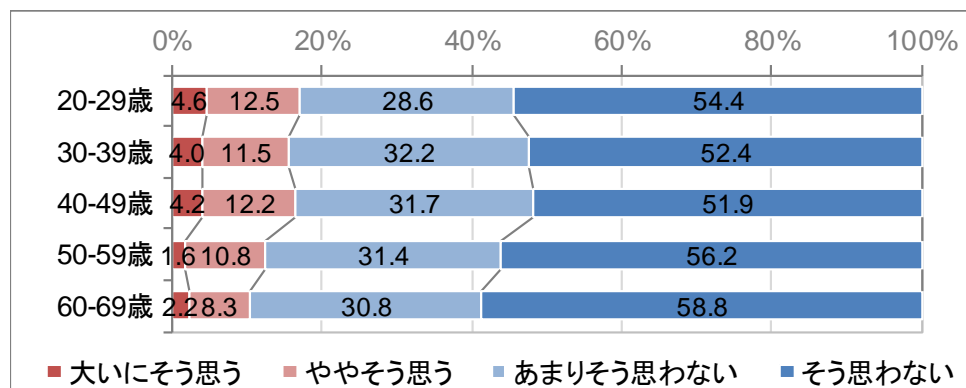
【全体】

- ボランティアとして東京大会に参加したい割合は「大いにそう思う」が約3%、「ややそう思う」が約11%である。



年代別

- 年代別に見ると、20-40代で参加意向の割合が高い。

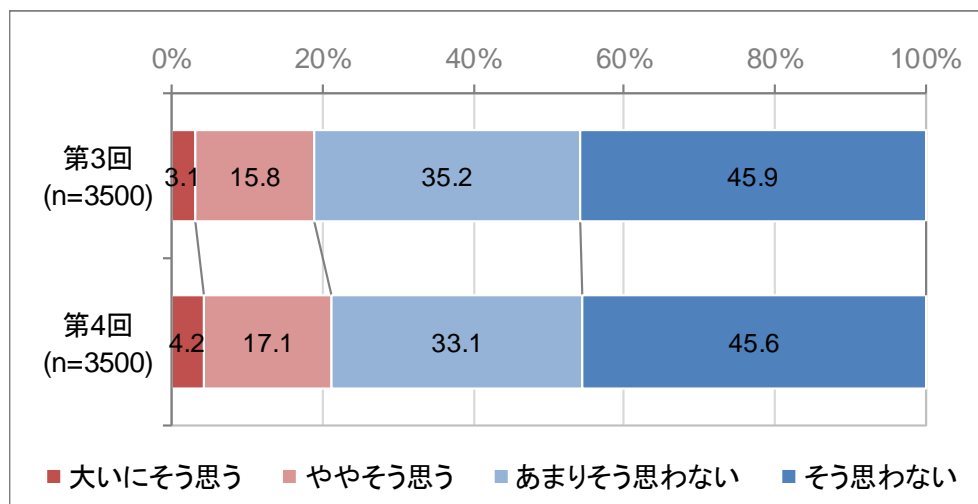


1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(4)東京大会までの4年間に開催される予定の大会関連の文化イベント(音楽、美術、演劇、映画、食、歴史、伝統芸能など)に参加したい

【全体】

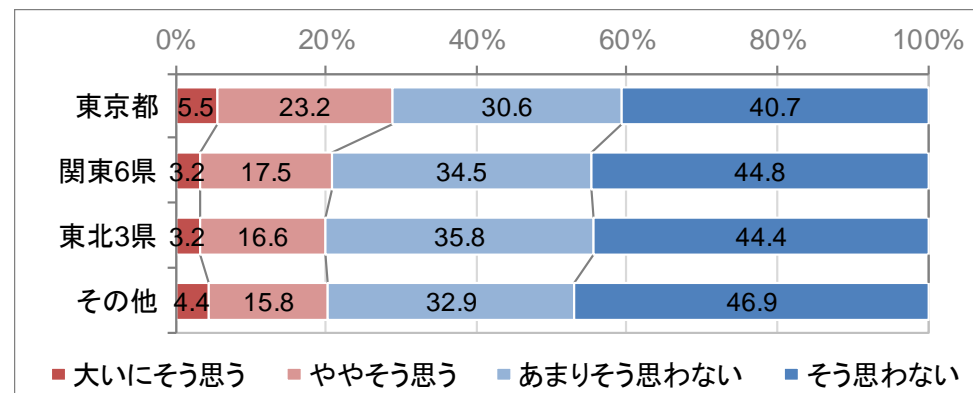
- 文化イベントに参加したい割合は、「大いに思う」が約4%、「やや思う」が約17%である。



【設問別クロス】

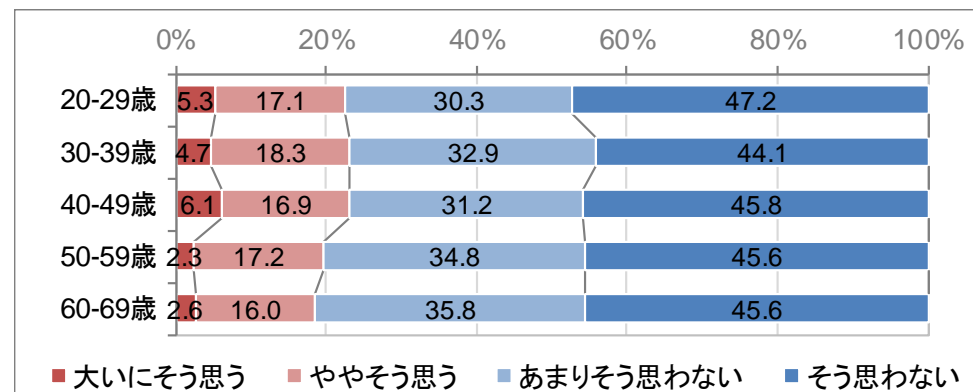
地域別

- 地域別には、東京都で参加意向の割合が高い。



年代別

- 年代別に見ると、20-40代で参加意向の割合が高い。



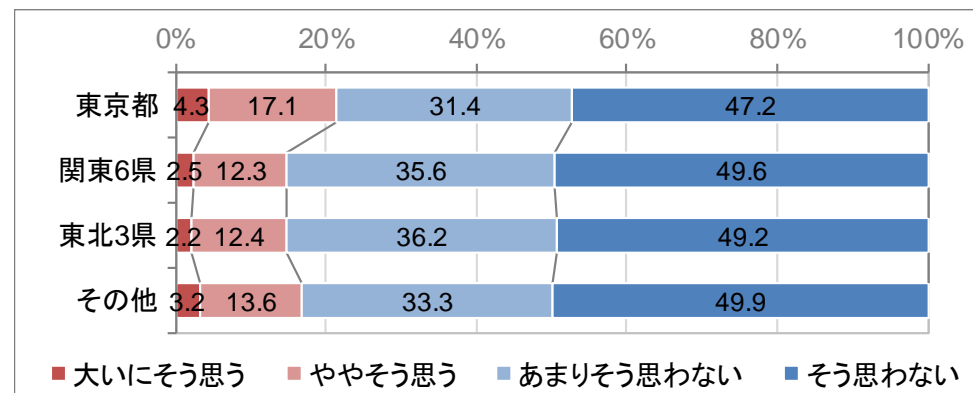
1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(5)大会に向けた調整のための合宿で、地元を訪れる外国人選手との交流イベントに参加したい

【設問別クロス】

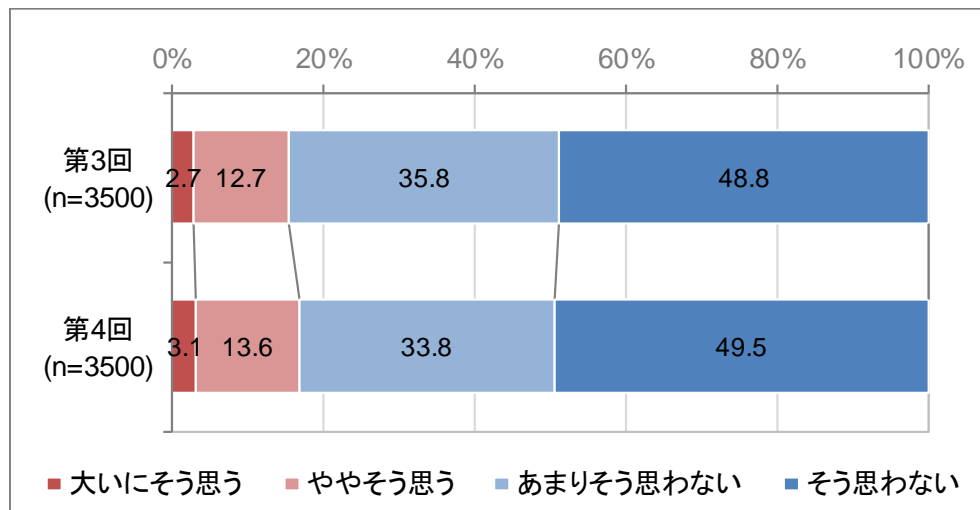
地域別

➤ 地域別には、東京都で参加意向の割合が高い。



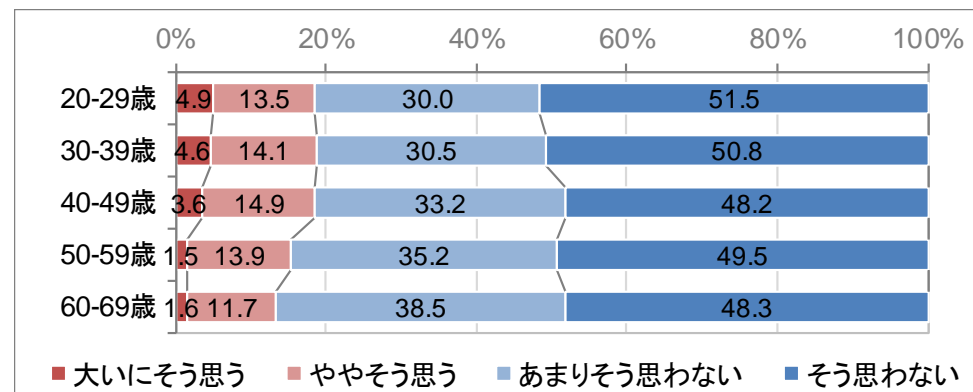
【全体】

➤ 外国人選手との交流イベントに参加したい割合は「大いにそう思う」が約3%、「ややそう思う」が約14%である。



年代別

➤ 年代別に見ると、20-40代で参加意向の割合が高い。



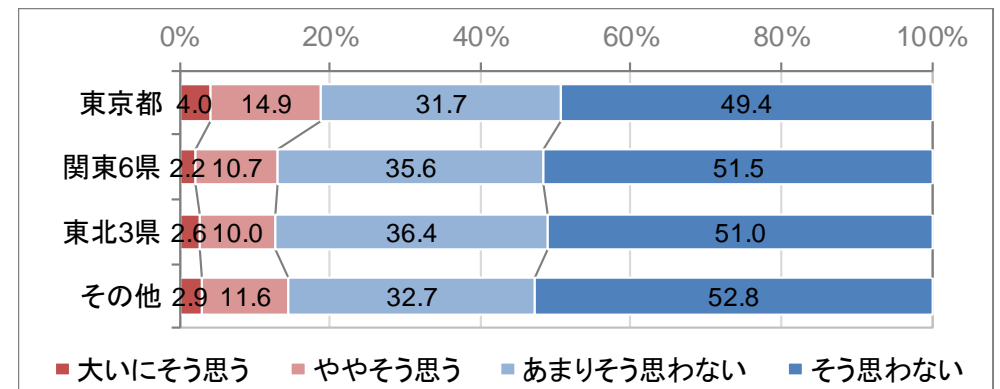
1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(6) ボランティアや文化イベント、外国人選手交流イベントなど、大会に関連するプログラムの企画に加わりたい

【設問別クロス】

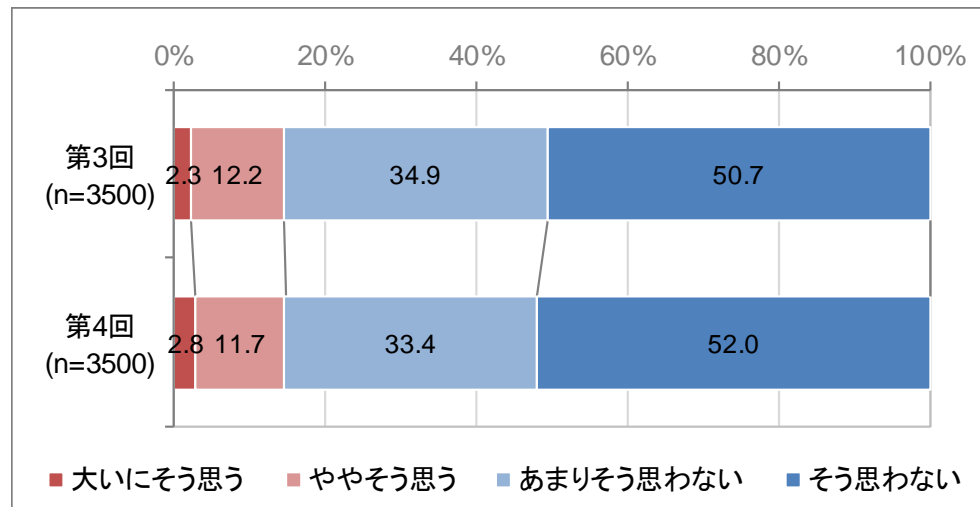
地域別

➤ 地域別には、東京都で参加意向の割合が高い。



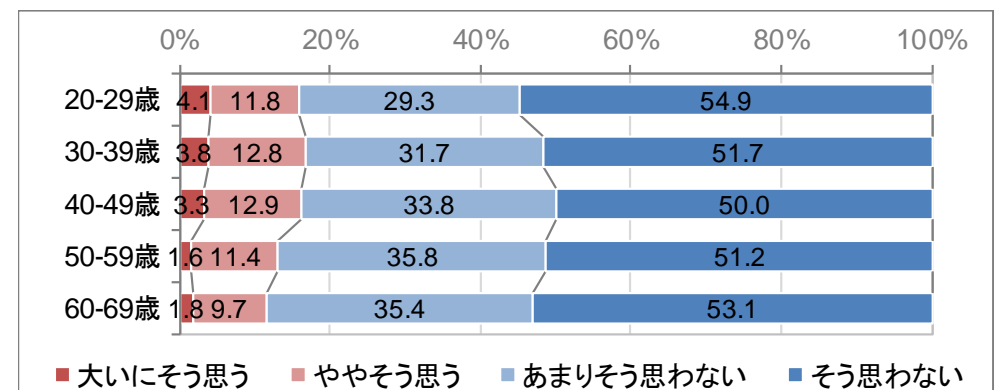
【全体】

➤ 大会に関連するプログラムの企画に加わりたい割合は「大いにそう思う」が約3%、「ややそう思う」が約12%である。



年代別

➤ 年代別に見ると、20-40代で参加意向の割合が高い。



2. 「オリンピック・レガシー」について

【全体】

- オリンピック・レガシーという言葉について、(意味も含めて)「知っていた」のは約21%、「聞いたことがある」は約27%と、約48%の認知が見られる。
- オリンピック・レガシーの認知度は、第3回調査時(2016年4月)よりも大きく向上した。

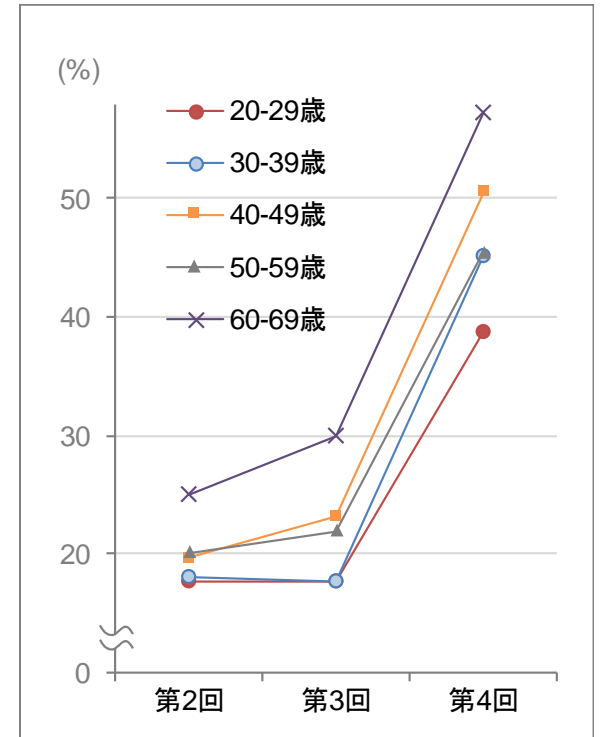
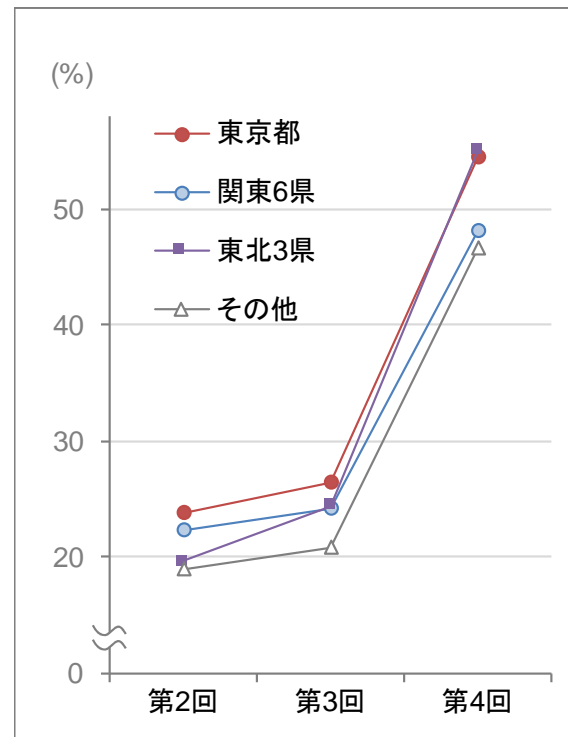
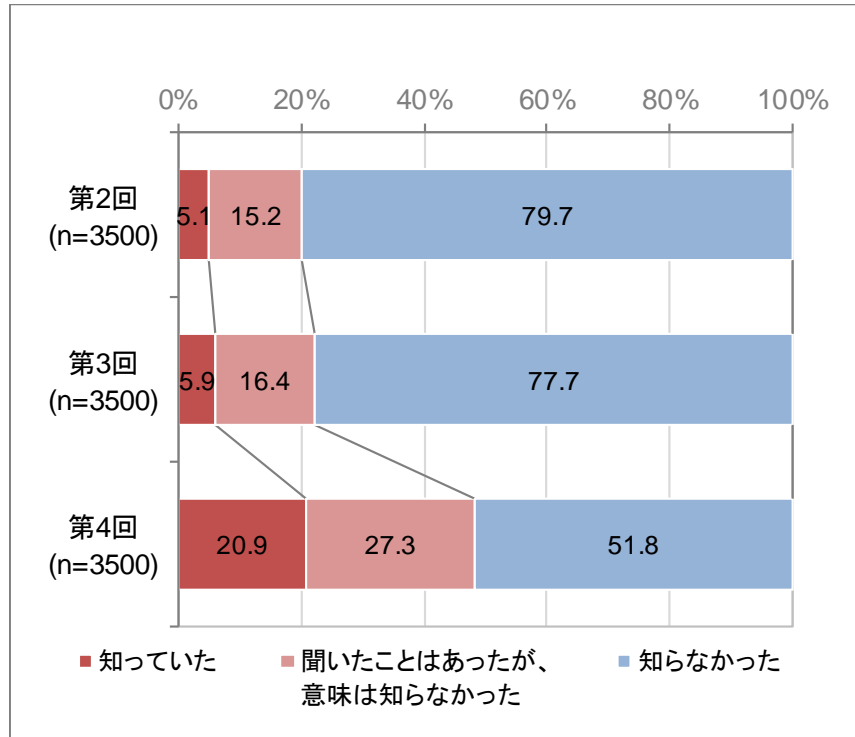
【設問別クロス】

地域別：認知度※

- レガシーの認知度は全ての地域で上昇している。

年代別：認知度※

- レガシーの認知度は全ての年代で上昇している。特に、60台は6割ほどの認知度となった。

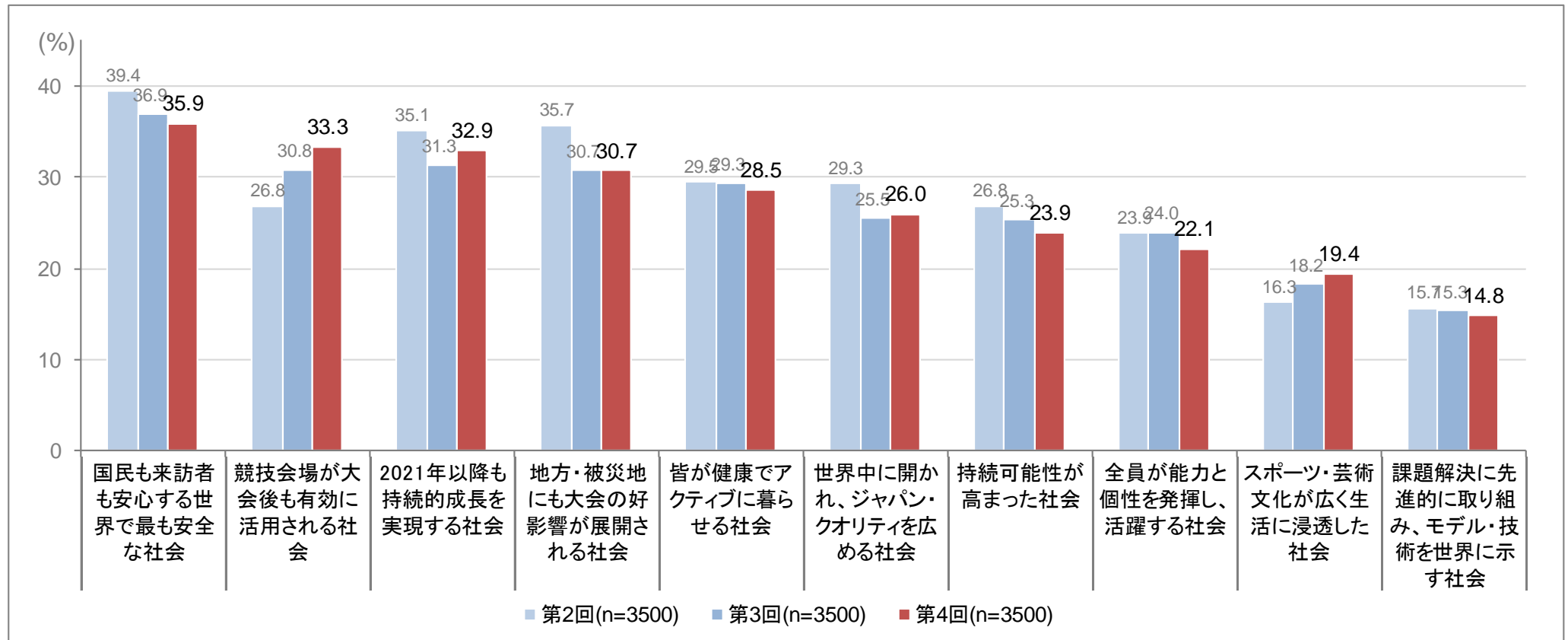


※「知っていた」+「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」の合計値

3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会（レガシー）

【全体】

- 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会（レガシー）への期待としては、「安全な社会」が約36%と最も高く、次いで「競技会場の大会後の有効活用」「2021年以降も持続的に成長する社会」「地方・被災地への好影響の展開」がそれぞれ約33%～31%となっている。
- ただし、半数の項目で、第3回調査と比べて期待度が低下している。
- 期待度が1ポイント以上上昇しているのは、「競技会場の大会後の有効活用」「2021年以降も持続的に成長する社会」「スポーツ・芸術文化の生活への浸透」となっている。



※第4回の値の大きい順に表示

3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会（レガシー）

【設問別クロス】

地域別

- 全国ベースで2.5ポイント上昇した「競技会場の大会後の有効活用」は、東京都、関東6県、東北3県という競技会場が設置される地域で向上幅が大きい。
- 全国ベースで1.6ポイント上昇した「2021年以降も持続的に成長する社会」は東北3県で大きく向上。

東京都	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	41.0	38.4	35.7	-2.7
2021年以降も持続的成長を実現する社会	38.1	33.0	35.2	2.2
競技会場が大会後も有効に活用される社会	30.6	27.7	33.6	5.9
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	29.8	31.7	28.4	-3.3
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	32.7	27.6	26.4	-1.2
持続可能性が高まった社会	29.0	24.9	26.1	1.2
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	29.8	24.6	25.5	0.9
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	25.9	24.4	23.2	-1.2
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	20.1	17.5	19.5	2.0
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	18.0	14.8	15.4	0.6

東北3県	第2回	第3回	第4回	変化
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	52.0	44.0	45.6	1.6
競技会場が大会後も有効に活用される社会	30.0	32.4	36.2	3.8
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	36.8	35.8	34.8	-1.0
2021年以降も持続的成長を実現する社会	27.0	25.6	31.8	6.2
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	28.8	29.0	28.6	-0.4
持続可能性が高まった社会	27.4	23.2	26.6	3.4
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	29.2	25.8	23.2	-2.6
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	21.8	23.4	22.4	-1.0
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	20.4	17.4	19.6	2.2
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	12.8	11.8	14.6	2.8

関東6県	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	39.6	38.7	38.1	-0.6
競技会場が大会後も有効に活用される社会	28.0	30.8	35.2	4.4
2021年以降も持続的成長を実現する社会	37.3	32.2	33.0	0.8
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	31.7	28.1	32.0	3.9
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	30.6	29.5	27.2	-2.3
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	30.2	24.2	26.3	2.1
持続可能性が高まった社会	28.7	25.7	26.0	0.3
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	24.8	23.2	20.7	-2.5
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	16.6	20.1	16.5	-3.6
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	16.0	13.9	15.1	1.2

その他	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	39.3	36.0	35.1	-0.9
2021年以降も持続的成長を実現する社会	34.3	31.1	32.5	1.4
競技会場が大会後も有効に活用される社会	25.5	31.2	32.3	1.1
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	36.6	31.4	29.9	-1.5
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	29.0	28.8	29.1	0.3
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	28.8	26.1	26.1	0.0
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	23.3	24.2	22.5	-1.7
持続可能性が高まった社会	25.7	25.4	22.4	-3.0
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	15.2	17.7	20.5	2.8
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	15.3	16.2	14.6	-1.6

※いずれも、第4回の値の大きい順に表示。

変化は第4回と第3回の値の差。2ポイント以上上昇しているものをブルー、2ポイント以上低下しているものをピンクのあみかけをしている。

3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)

【設問別クロス】

年代別

- 全国ベースで2.5ポイント上昇した「競技会場の大会後の有効活用」は、30-40代で向上幅が大きい。
- 全国ベースで1.6ポイント上昇した「2021年以降も持続的に成長する社会」は40-50代で向上。

20代

	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	34.0	26.1	32.0	6.0
2021年以降も持続的成長を実現する社会	33.9	30.2	31.1	0.8
競技会場が大会後も有効に活用される社会	22.8	26.3	26.7	0.4
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	27.5	26.6	24.1	-2.5
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	25.0	22.6	23.4	0.8
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	21.2	21.7	22.0	0.3
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	23.6	21.2	21.4	0.3
持続可能性が高まった社会	23.8	21.9	19.1	-2.8
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	17.1	14.3	18.6	4.3
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	13.1	17.4	16.4	-1.1

30代

	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	34.3	31.2	32.2	1.0
競技会場が大会後も有効に活用される社会	25.8	27.2	31.3	4.1
2021年以降も持続的成長を実現する社会	36.6	30.5	30.7	0.2
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	31.6	24.6	28.9	4.3
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	24.1	18.8	26.4	7.6
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	26.2	24.6	25.9	1.3
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	22.6	20.2	22.2	2.0
持続可能性が高まった社会	23.3	19.9	22.2	2.3
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	17.4	18.8	19.5	0.7
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	13.1	12.6	14.5	2.0

40代

	第2回	第3回	第4回	変化
2021年以降も持続的成長を実現する社会	34.8	29.6	34.4	4.8
競技会場が大会後も有効に活用される社会	27.9	28.6	33.6	5.0
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	36.5	36.6	31.5	-5.1
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	33.2	29.7	29.0	-0.7
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	25.8	27.1	24.2	-2.9
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	26.9	27.7	24.1	-3.6
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	21.9	27.3	22.8	-4.4
持続可能性が高まった社会	26.9	26.9	20.8	-6.2
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	15.8	18.8	17.7	-1.1
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	14.7	16.0	11.2	-4.8

50代

	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	42.2	40.2	37.6	-2.6
2021年以降も持続的成長を実現する社会	33.7	29.8	33.8	4.0
競技会場が大会後も有効に活用される社会	24.8	33.3	32.6	-0.7
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	37.5	32.7	31.9	-0.8
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	30.3	30.8	30.8	0.1
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	30.3	25.0	27.1	2.1
持続可能性が高まった社会	25.3	24.5	24.9	0.4
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	25.8	26.0	21.4	-4.6
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	16.0	16.2	18.7	2.5
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	14.1	14.5	14.3	-0.2

60代

	第2回	第3回	第4回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	48.9	48.0	44.6	-3.4
競技会場が大会後も有効に活用される社会	31.8	37.5	39.9	2.4
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	38.7	40.2	38.2	-2.0
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	46.6	39.1	37.4	-1.8
2021年以降も持続的成長を実現する社会	36.1	36.0	33.8	-2.2
持続可能性が高まった社会	34.0	32.5	30.8	-1.7
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	39.7	33.2	28.1	-5.1
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	27.3	24.4	22.2	-2.3
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	15.2	21.9	22.1	0.3
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	22.4	16.6	18.1	1.5

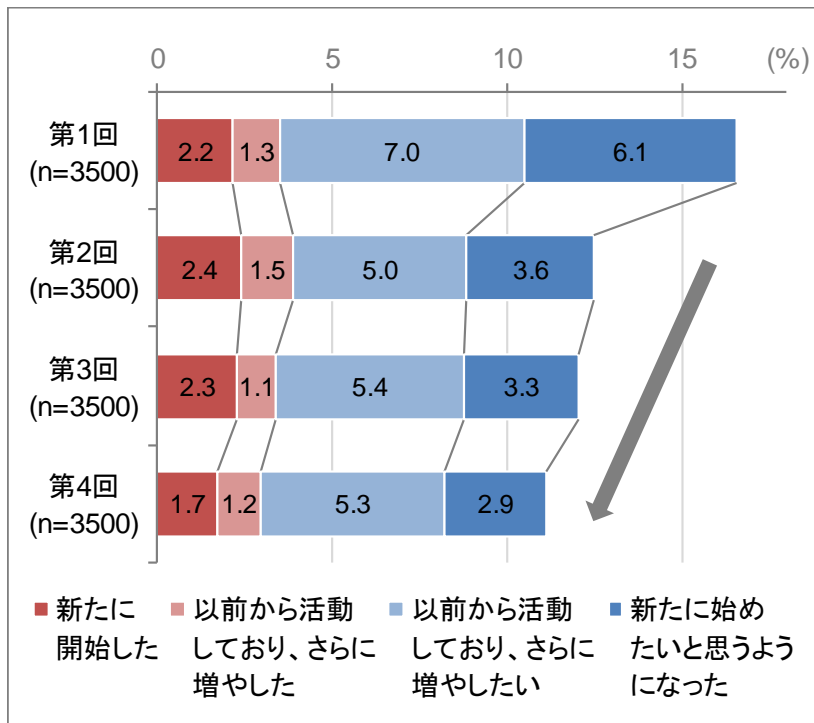
※いずれも、第4回の値の大きい順に表示。

変化は第4回と第3回の値の差。2ポイント以上上昇しているものをブルー、2ポイント以上低下しているものをピンクのあみかけをしている。

4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(スポーツ・運動)

【全体】

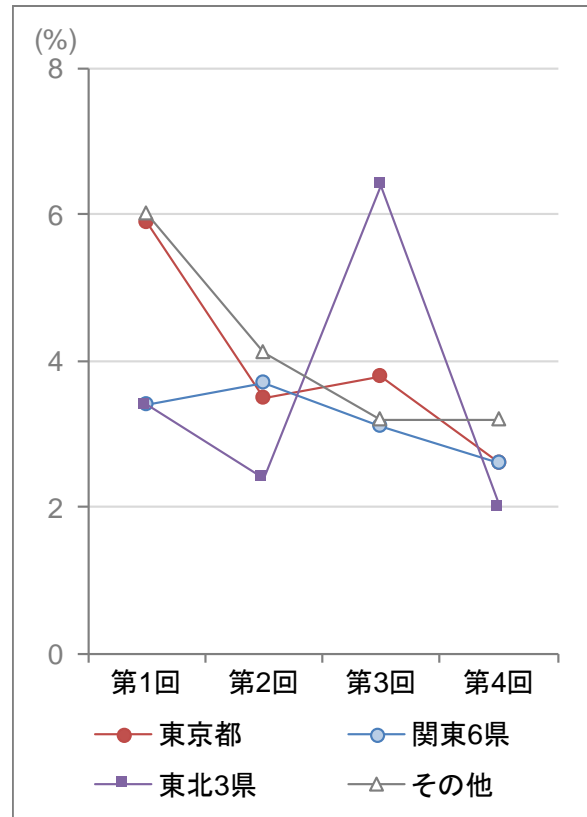
- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が最も大きかったのがスポーツ・運動である。
- しかし、その割合は低下傾向にある。特に、活動をしたいという意向が第1回調査時(2013年12月)の計13.1%から計8.2%へと4.9ポイント低下している。



【設問別クロス】

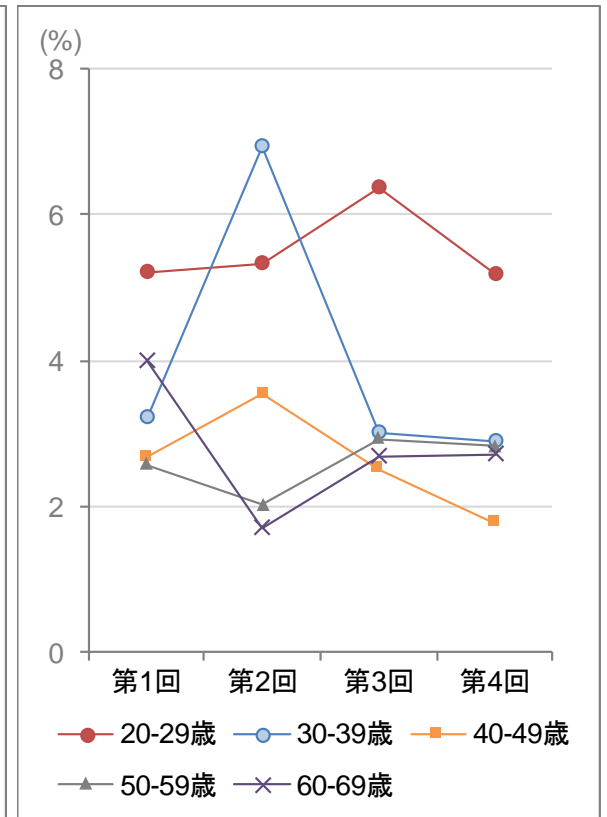
地域別: 行動変容*

- 行動変容は、全地域で低下している。



年代別: 行動変容*

- 20代は行動変容の割合が大きい。

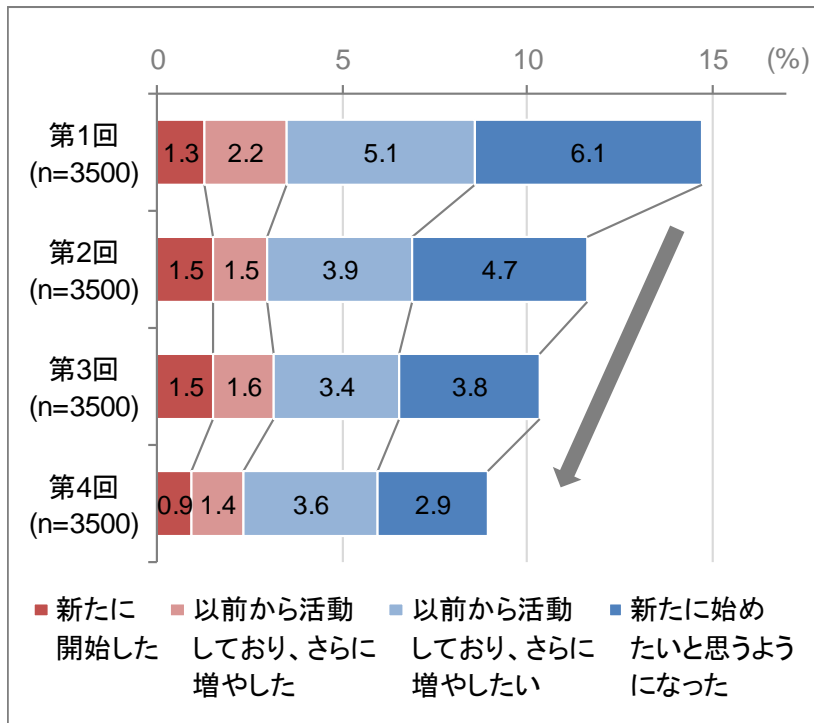


*行動変容: 「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(外国語の勉強)

【全体】

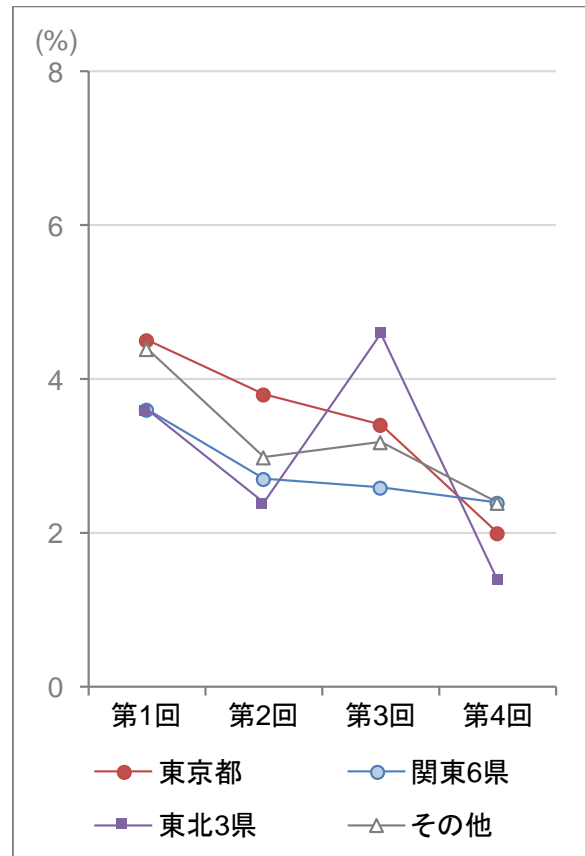
- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が2番目に大きかったのが外国語の勉強である。
- しかし、その割合は低下傾向にある。特に、活動をしたいという意向が第1回調査時(2013年12月)の計11.2%から計6.5%へと4.7ポイント低下している。



【設問別クロス】

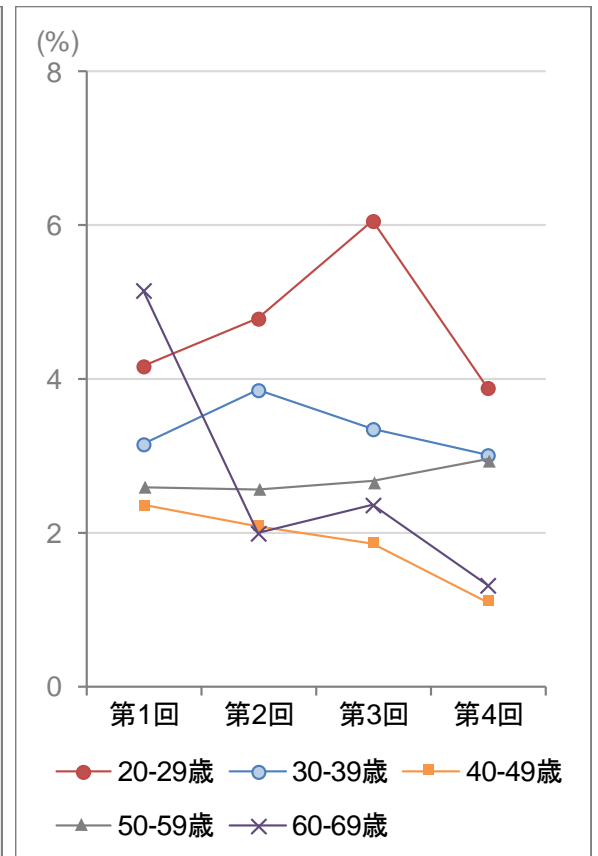
地域別: 行動変容*

- 行動変容は、全地域で低下している。



年代別: 行動変容*

- 20代は、行動変容が前年よりも低下したものの、その割合は他の年代よりも大きい。

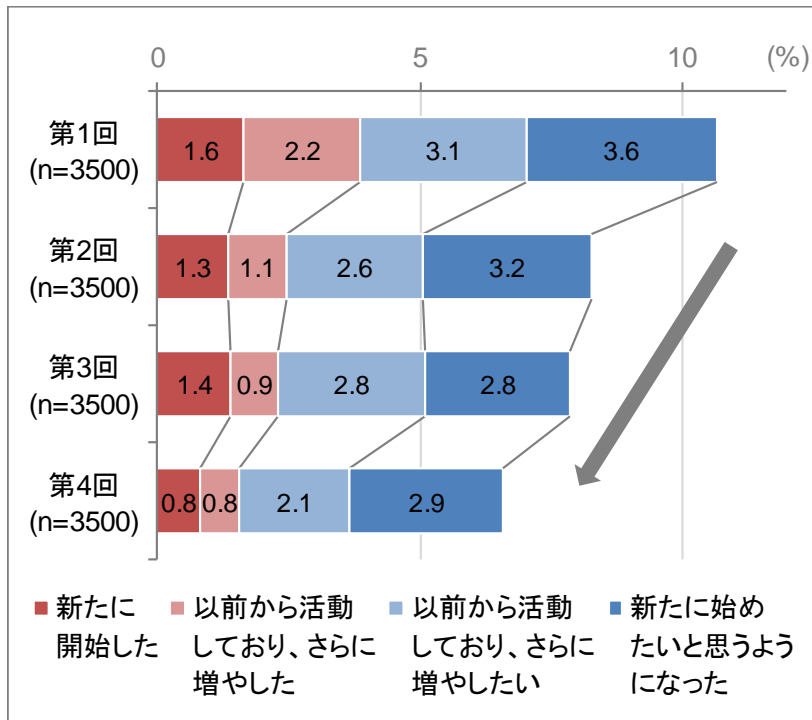


*行動変容: 「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(ボランティア)

【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が3番目に大きかったのがボランティアである。
- なお、その割合は低下傾向にある。活動をしたという意向が第1回調査時(2013年12月)から1.7ポイント減、実際に活動をしたという行動変容が2.2ポイント減少している。

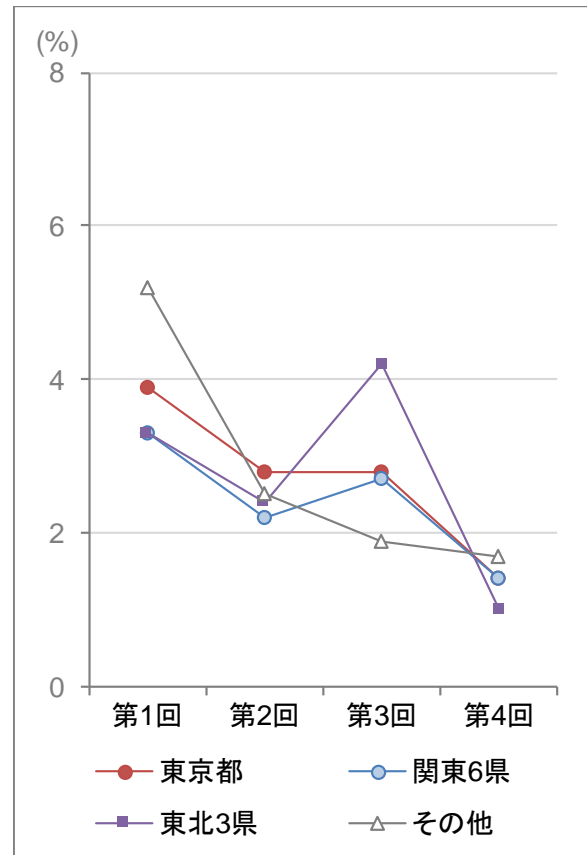


注:「特に変化はない」を除いている

【設問別クロス】

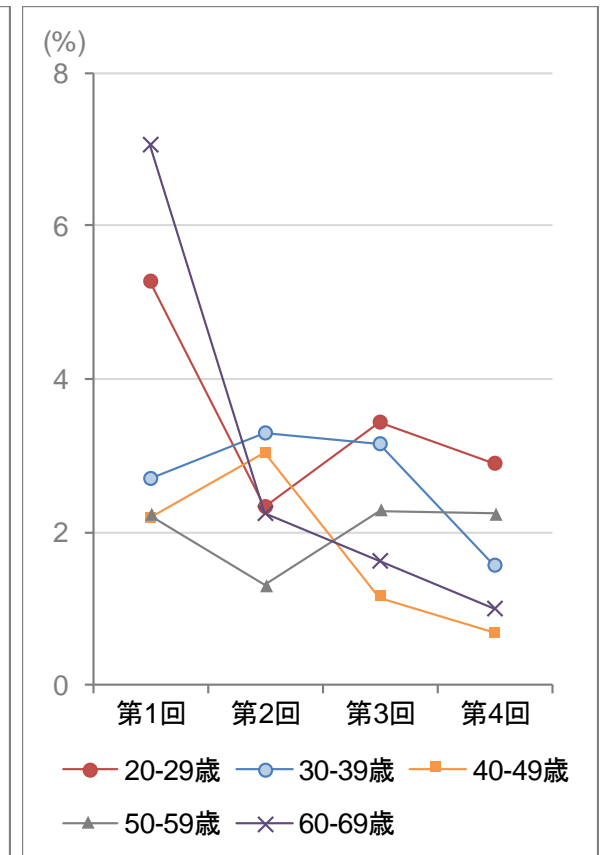
地域別:行動変容*

- 全地域で行動変容が低下している。



年代別:行動変容*

- 年代別にみても、全年代で行動変容が低下している。

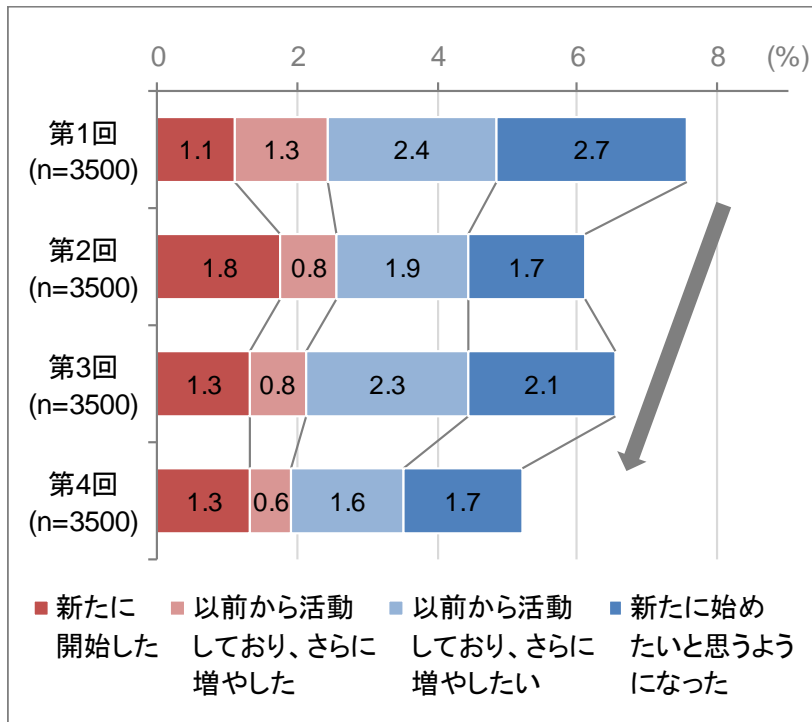


*行動変容:「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(地域づくり活動)

【全体】

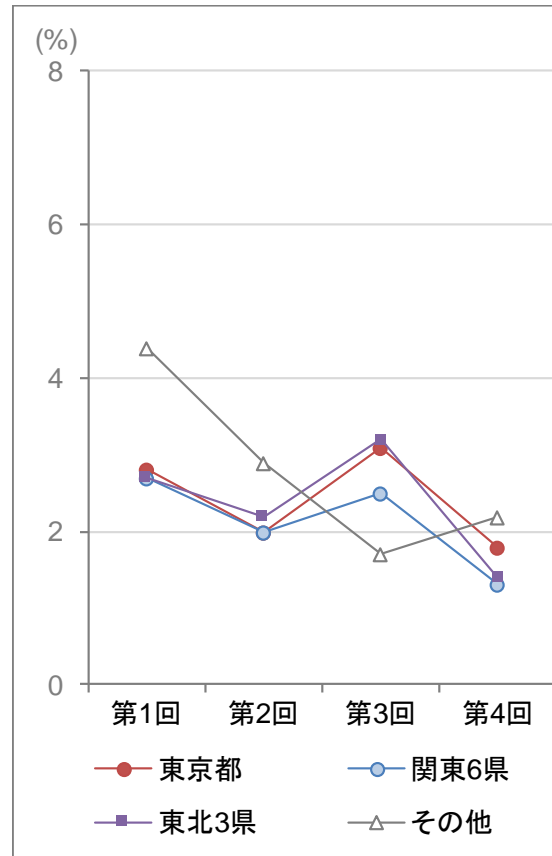
- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が4番目に大きかったのが地域づくり活動である。
- 活動をしたいという意向が第1回調査時(2013年12月)から1.8ポイント減、実際に活動をしたという行動変容が0.5ポイント減少している。



【設問別クロス】

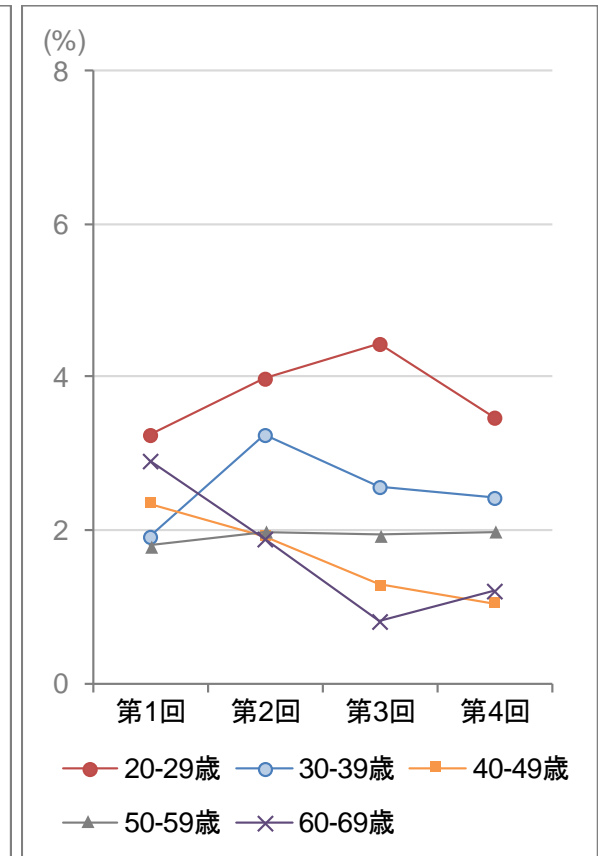
地域別: 行動変容*

- その他の地域以外で行動変容が低下している。



年代別: 行動変容*

- 20代は、行動変容が前年よりも低下したものの、その割合は他の年代よりも大きい。

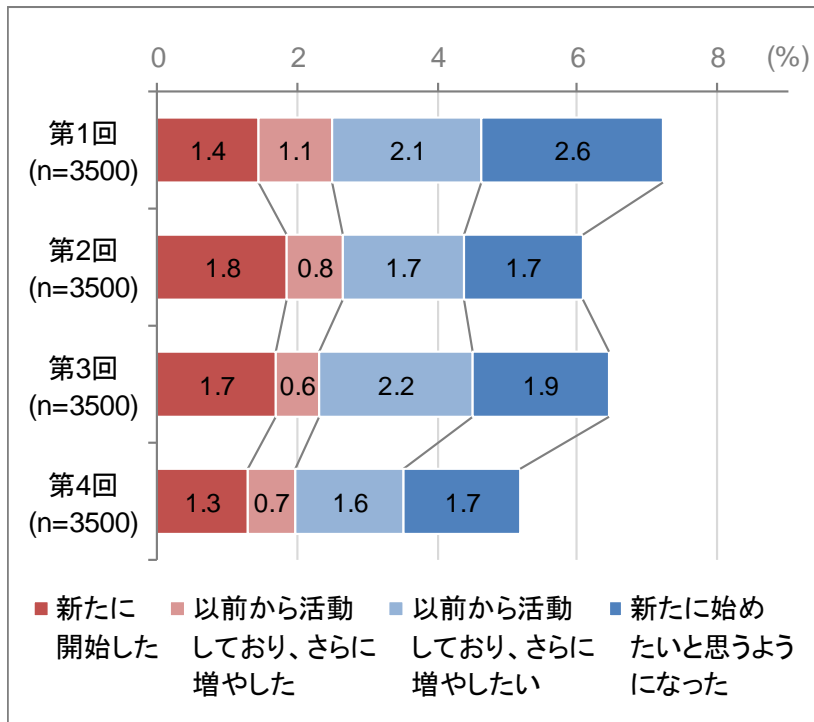


*行動変容: 「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(ビジネス面)

【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が5番目に大きかったのがビジネス面である。
- 活動をしたいという意向が第1回調査時(2013年12月)から1.4ポイント減、実際に活動をしたという行動変容が0.5ポイント減少している。

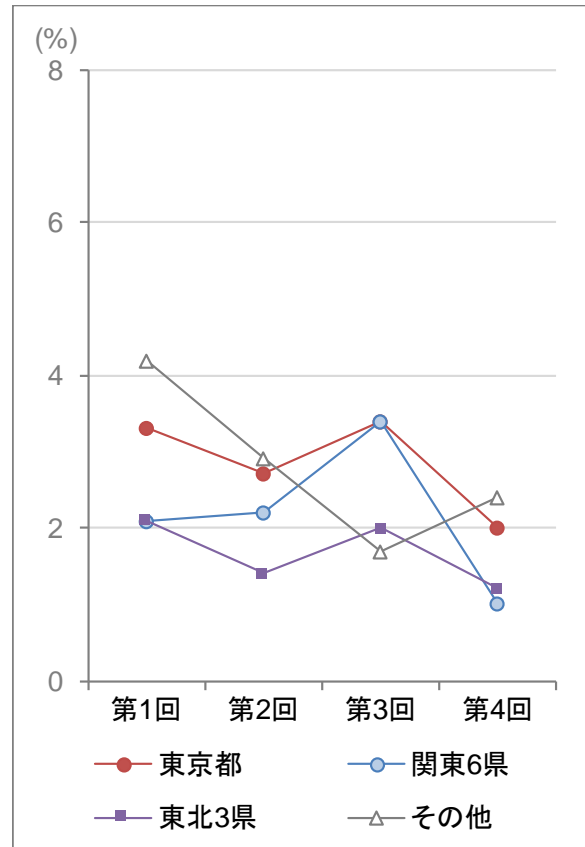


注:「特に変化はない」を除いている

【設問別クロス】

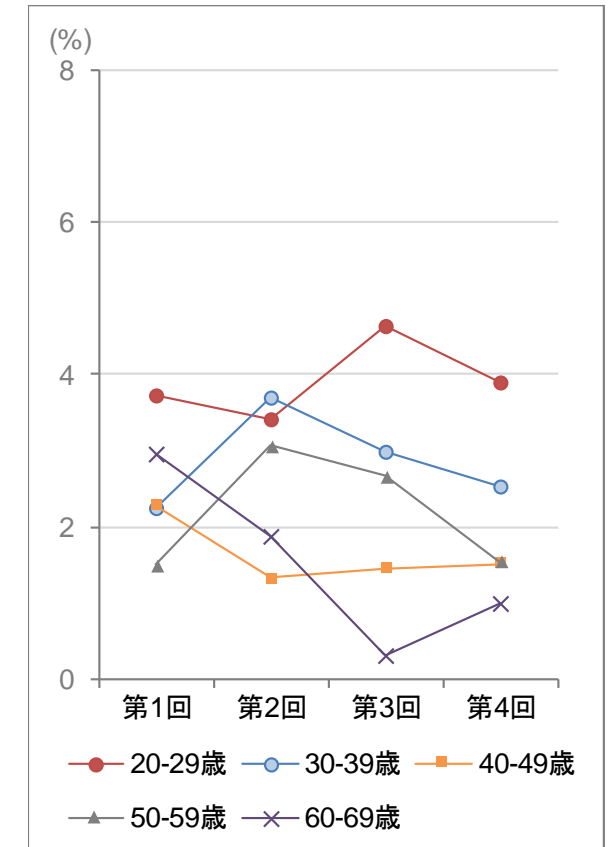
地域別:行動変容*

- その他の地域以外で行動変容が低下している。



年代別:行動変容*

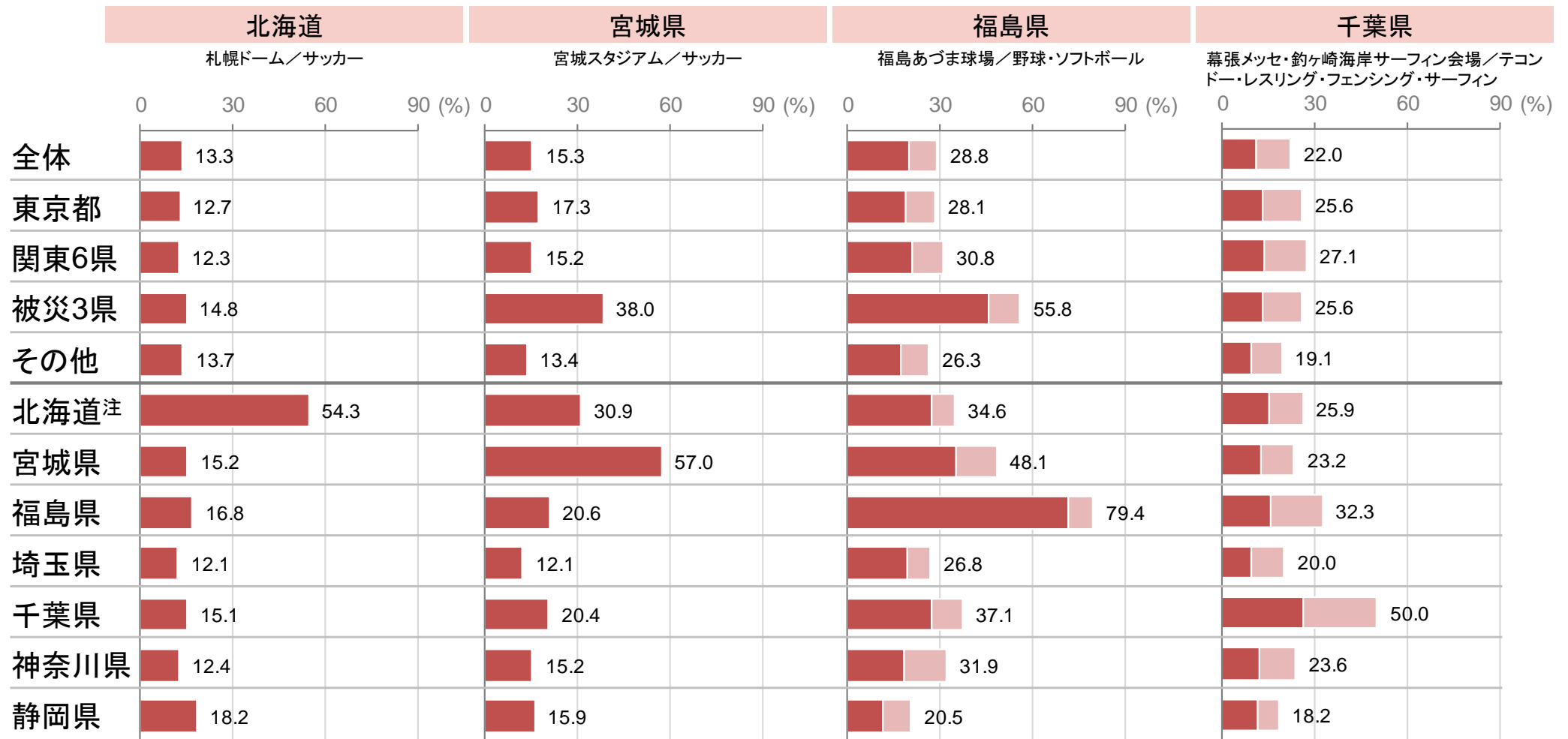
- 20代は、行動変容が前年よりも低下したものの、その割合は他の年代よりも大きい。



*行動変容:「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

5. 2020年東京大会開催地域と競技の認知度(1)

- 競技会場が設置される都道府県の認知度は高い。特に、福島県の認知度が高く、8割に達している。
- 全国ベースでは、北海道、宮城、千葉、静岡は、認知度が1～2割程度にとどまり、一層の認知度向上が求められるといえる。

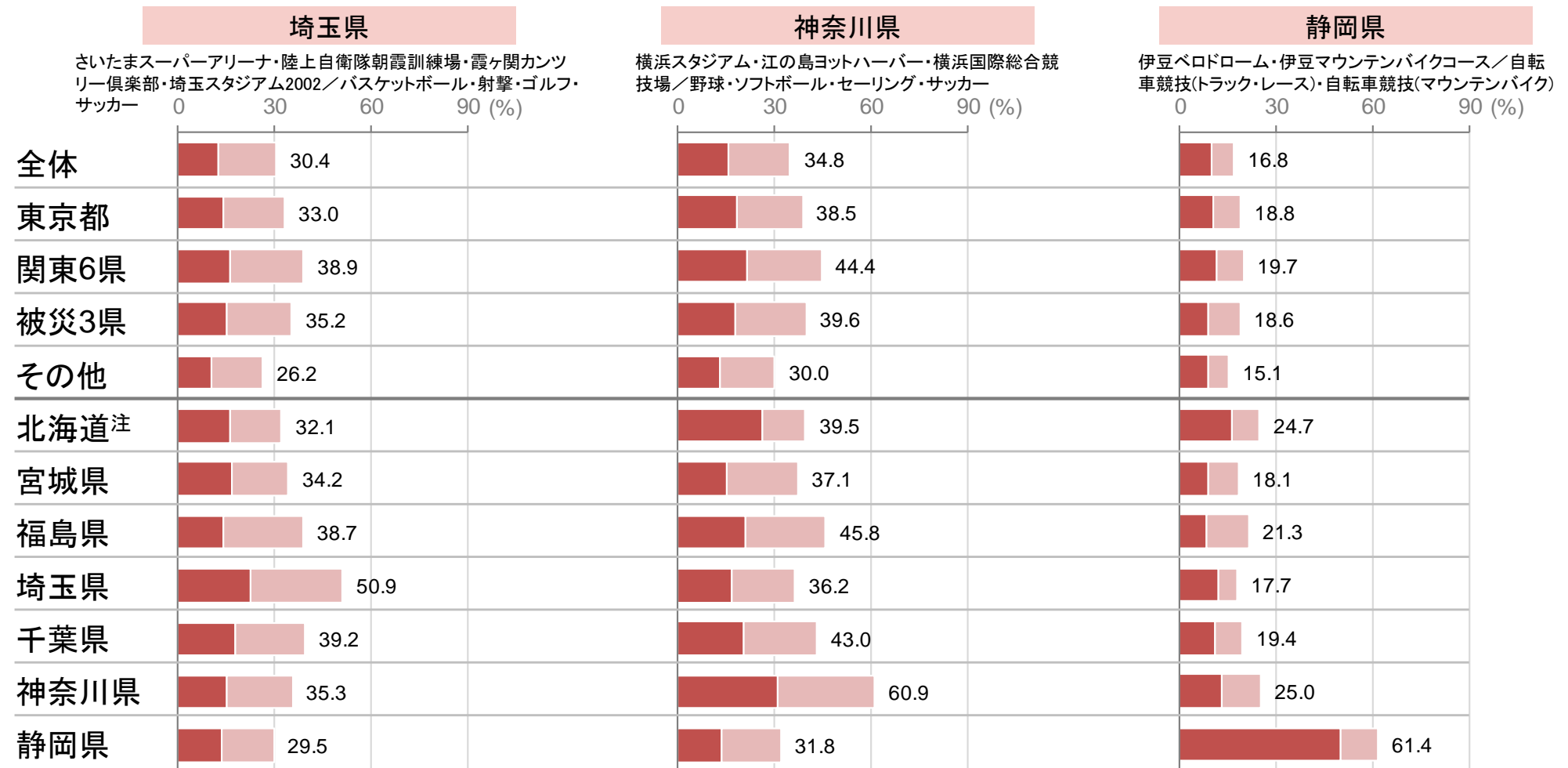


注：東京以外の各開催地は実数集計値

■ 知っていた

■ 一部の会場・競技は知っていた

5. 2020年東京大会開催地域と競技の認知度(2)



注: 東京以外の各開催地は実数集計値

■ 知っていた ■ 一部の会場・競技は知っていた